
ハンター～少年～少女～

朧雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハンター〜少年〜少女〜

【Nコード】

N1462C

【作者名】

朧雪

【あらすじ】

モンスターハンターを土台とした四人の少年と少女の話

第一話 目覚めの朝（前書き）

初投稿です。けっこう長くなっていますがよろしくお願いします。

第一話 目覚めの朝

ドンドンドン！

せわしなくドアをたたく少年。

「いつまで寝ればきがすむんだよ！」

その声とともに起きた少女。

「うるさいな。」

などと文句を言いながらドアを開けた。

目の前には、黒い瞳と髪をした少年が立っていた。

「なんだ、ユウトか。」

「なんだじゃねえよ！今日の約束忘れちまったのか？」

イラつかせながらそう言うと、少女も気付いたのか、

「あ！」

と言い家の奥にに急いで走って行った。

「レイはいつまでたってもかわんねえな。」 などと言いながら家

の中に入った。

二十分位してから茶色の瞳をした赤い髪の少女がやって来た。彼女

がレイである。

「ごめん！忘れてた。」

「やっぱりか……」

ため息をつくユウト。

「まっ、いつか。それよりも早く行くぞ。リクが先行って受注して

くれているはずだからな。」

「うん。早く行こう。」

そう言うと、二人は自分たちの町、グランバルドの酒場へ、慌てて走って行った。

第二話 出発の時

酒場についたレイとユウトは、酒場のカウンターに行き、黒い瞳をした金髪の三つ編みの女性に話しかけた。

「ミラさん、リクきませんでしたか？」

ユウトが聞いた。

「リク？リクならあそこにいるわよ。」

と、言つてカウンターの隅を指差した。

ちなみにミラさんは、一人でクエスト関係の仕事をしているすごい人だ。

「ゴメン！遅くなつて。」

と、レイが言つた。

「またレイの寝坊か。」

あきれ顔で言うリク。

「だからゴメンって。それより、今日は何のクエストだっけ？」

「ドスランポス三匹だろ。それまで忘れたか。」

ユウトが言つた。

「異常増殖しちゃったんだっけ？」

「それだけじゃなくて、人に対する事件も沢山あるしな。」

リクは少し真剣な表情で言つた。

みんなが真剣な表情になった時に、後ろから声がした。

「よ！どうした。みんな真剣な顔して。」振り向くと、そこには龍

人族のバグさんが不思議そうにこつちを見ていた。

バグさんは、茶色の瞳をして栗色の髪をした元ハンターだ。左手は無く、少し抜けた感じのおじさんだ。

「クエストの話し合いだよ。真剣にもなるって。」

と、リク。

「おお！そうかそうか。で、何のクエストに出かけるんだ？」

「ドスランポス三匹。」

「ああ、あの異常増殖したやつか。」「今から出発するんだけど、何かアドバイスはない？」

レイが聞いた。

「おまえたちなら大丈夫だろ。まあ、気をつけて行ってこいよ！」

「わかりました。じゃあ行ってきます。」

三人は声をそろえて言った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1462c/>

ハンター～少年～少女～

2010年10月10日02時43分発行